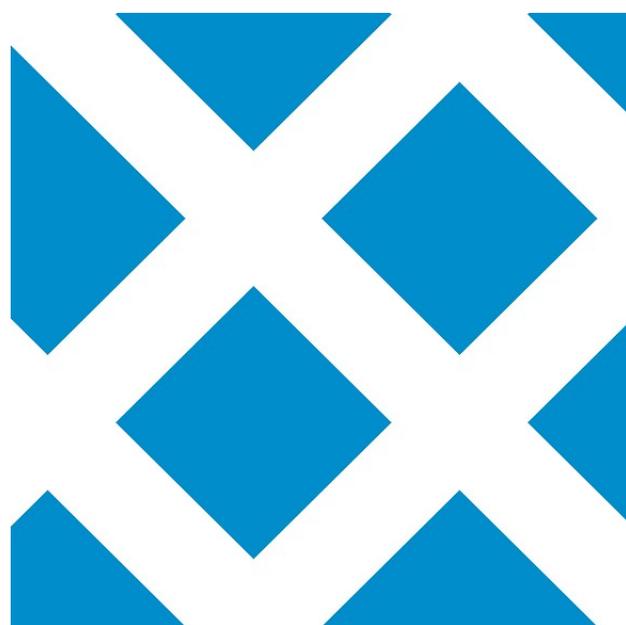


教育委員会事務の点検・評価報告書

(令和5年度)



令和6年9月
萩市教育委員会

■ 目 次

1	教育委員会事務の点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価の対象	1
3	点検及び評価の方法	1
4	点検及び評価の結果	2
	<事業点検・評価シート>	
No. 1	小中学校における教育体制の充実及び児童生徒の確かな学力、 豊かな心を育む教育の推進	3
No. 2	小中学校における児童生徒の健やかな体を育む教育の推進	9
No. 3	児童生徒の英語教育の充実	12
No. 4	小・中・高が一体となった志教育の推進と地域とともにある学校 づくり	13
No. 5	教育環境の整備	16
No. 6	市内高等学校の魅力化支援	19
No. 7	生涯学習の基礎づくり	21
No. 8	生涯学習の場とひとづくり	25
No. 9	生涯学習によるまちづくり	29
No.10	生涯スポーツの推進	33
No.11	競技水準の向上	35
No.12	人材の育成（スポーツ）	36
No.13	スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化	38
No.14	家庭・地域・保育所・認定こども園等・学校・図書館で の子どもの読書活動の推進	40
No.15	読書活動推進のための環境整備及び推進者への支援	43
No.16	読書活動への理解と関心を深めるための啓発活動	46

1 教育委員会事務の点検及び評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律において、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表しなければならないと定められています。

萩市教育委員会では、当該規定に従い、事務の点検及び評価を実施し、本報告書を作成しました。

2 点検及び評価の対象

次に掲げる事項を令和5年度の点検及び評価の対象として選定しました。

- (1) 小中学校における教育体制の充実及び児童生徒の確かな学力、豊かな心を育む教育の推進
- (2) 小中学校における児童生徒の健やかな体を育む教育の推進
- (3) 児童生徒の英語教育の充実
- (4) 小・中・高が一体となった志教育の推進と地域とともにある学校づくり
- (5) 教育環境の整備
- (6) 市内高等学校の魅力化支援
- (7) 生涯学習の基礎づくり
- (8) 生涯学習の場とひとづくり
- (9) 生涯学習によるまちづくり
- (10) 生涯スポーツの推進
- (11) 競技水準の向上
- (12) 人材の育成（スポーツ）
- (13) スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化
- (14) 家庭・地域・保育所・認定こども園等・学校・図書館での子どもの読書活動の推進
- (15) 読書活動推進のための環境整備及び推進者への支援
- (16) 読書活動への理解と関心を深めるための啓発活動

3 点検及び評価の方法

前項に掲げる事項について、点検・評価シートにより、各項目の実施状況に係る成果を検証し、今後の取組について検討しました。

点検及び評価の実施にあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、萩市ひとづくり構想推進委員会において、意見をいただきました。

4 点検及び評価の結果

点検・評価シートのとおり

4 点検及び評価の結果

令和5年度 点検・評価シート

NO. 1

項目	小中学校における教育体制の充実及び児童生徒の確かな学力、豊かな心を育む教育の推進	担当課	学校教育課
目的・目標	<p>各学校の学力向上プランに基づく授業改善の取組を推進するとともに、校種間及び家庭・地域との連携・協働により、児童生徒に確かな学力を身に付けさせる。また、児童生徒数の推移を鑑み、小規模校における複式指導の一層の充実を図る。いじめや不登校等の生徒指導上の諸課題に対して、専門家との連携を図りながら、子ども相談・支援室を中心とした生徒指導・教育相談体制の充実を図り、学校の組織的な対応を支援する。</p>		
実施状況・成果	<p>1 小中一貫教育の推進及び主体的、対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の充実、複式指導の充実</p> <p>(1)全国学力・学習状況調査実施全教科において全国平均を上回る。</p> <p><u>令和5年度調査における正答率の全国平均との比較</u></p> <p><u>・小学校：国語（±0ポイント）、算数（△2ポイント）</u></p> <p><u>・中学校：国語（+1ポイント）、数学（+2ポイント）英語（△2ポイント）</u></p> <p>小学校の国語においては、全国平均と同程度であったが、算数は、2ポイント下回った。中学校は、国語、数学ともに全国平均を上回ったが、英語については、2ポイント下回る結果となった。</p> <p>小学校の国語においては、言葉に関する知識技能を問う問題の正答率がやや低く、逆に読解力を問う問題の正答率が高いという傾向が見られた。</p> <p>算数においては、知識・技能及び思考・判断・表現力ともにやや低いという状況であった。</p> <p>中学校の国語においては、言葉に関する知識技能を問う問題の正答率がやや低く、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことに関する問題の正答率が高かった。</p> <p>数学においては、知識・技能を問う問題の正答率は、全国平均と同レベルであったが、思考・判断・表現力を問う問題の正答率が高いという結果になった。</p> <p>英語においては、聞くことや書くことに関する問題の正答率が低かった。</p> <p>この結果を踏まえ、「組織力の充実」、「授業力の向上」、「連携力の強化」という視点から、一人一人の確かな学力の向上に向け、教育活動の更なる充実</p>		

を図っていく。

(2)「授業の内容がよく分かる」と思う児童生徒の割合の増加

※（ ）内は前年度

・小学校：国語92.0%（79.8%）、算数88.0%（80.9%）

・中学校：国語85.2%（89.5%）、数学80.0%（85.2%）

小学校ではその割合が高く、中学校では前年度を下回る結果となった。

全小中学校に学習支援アプリを導入し、一人一台端末を活用しながら、自ら進んで調べたり、まとめたり、話し合ったりする子どもの主体的な学習活動に重点を置いた授業づくりを行っている。

(3)「勉強は好き」と思う児童生徒の割合の増加

※（ ）内は前年度

・小学校：国語67.7%（54.7%）、算数65.1%（54.7%）

・中学校：国語59.9%（70.7%）、数学60.3%（68.6%）

小学校ではその割合は高く、中学校では前年度を下回る結果となった。

個別最適な学びと協働的な学びの充実に向け、ICTの効果的な活用やグループ学習での学び合いの充実に努めている。また、自らの学習活動を振り返り、自己の変容や伸びを自覚できる授業づくりに取り組んできた。

小規模校が多い現状においては、多様な考えや価値観にふれ、自らの考えを深めたり、広げたりできるように、交流学习や遠隔授業を推進していく。

2 いじめ、不登校、暴力行為等への対応

(1)いじめの解消率

令和5年度・小学校：100%、中学校：97.4%（目標値100%）

小中学校の生徒指導上の諸課題の解決に向け、子どもに関わる相談や支援の充実を努めた。

いじめについては、小学校で44件、中学校で39件（前年度：小学校48件、中学校60件）認知されたが、中学校においては大幅に減少する結果となっている。

小学校、中学校ともに認知件数が減少した要因として、規律のある学級づくり、自己有用感をもたせる学級づくりに取り組んできたことが挙げられる。

特に、協働的な学びを通して他者から認められ、他者の役に立っていると感じられる場面を積み重ねていくことが、一人一人の居場所づくりにおいては必要である。また、児童生徒を日常的に観察し、積極的に声を掛けること

で、「先生は私のことを見ている」と感じ、教職員に不安や悩みについて相談しやすくなる。全教職員が意識的に児童生徒の行動観察や共感的な児童生徒理解に努めていることが、トラブルを未然に防ぐことにつながっている。

解消されていない事案については、被害生徒の気持ちに寄り添いながら、丁寧な聞き取りに努め、引き続き、不安解消に向けて、学校や保護者、関係機関等と連携しながら、適切な指導及び必要な支援を継続している。

(2)不登校、暴力行為の出現率・発生率の減少

令和5年度児童生徒100人当たりの不登校・暴力行為の件数

※（ ）内は前年度

※令和5年度においては、適応指導教室通所人数含

・小学校：不登校1.50（1.07）、暴力行為1.70（1.44）

・中学校：不登校5.68（4.31）、暴力行為2.28（0.88）

不登校（年間30日以上欠席）の児童生徒数は、小学校で23人、中学校で50人（前年度：小学校17人、中学校39人）であった。

小学校、中学校ともに不登校児童生徒数が増加傾向にあり、本市においても喫緊の課題となっている。増加の背景には、体調不良に起因するもの、集団生活に対する不適應など、様々なものが存在している。学校としては、該当の児童生徒との関わりを大切にしながら、保護者と密に連絡を取り合い、家庭や関係機関と連携した対応により、登校を促すことに努めている。

不登校の理由は個別の事案ごとに様々であるが、現状を分析すると、「学校には行けるが、教室に入れない子」（ステップアップルーム等 14名）、「家を出ることはできるが、学校に行けない子」（萩輝きスクール 17名）、「学校に行くことができず、外部機関とのつながりがもてない子」（19名）に分けることができる。

「教室に入れない子」については、萩東中学校のステップアップルームでの取組を参考にしながら別室登校を促したり、「学校に行けない子」については、萩輝きスクールへの通所を勧めたり、「誰ともつながりがもてない子」については、スクールソーシャルワーカーや家庭教育支援チームからの支援を行ったりするなど、一人一人の状況に応じた支援に努めてきた。

不登校児童生徒数が増えている現状を鑑み、令和6年度から、須佐、田万川、むつみ地域に、萩輝きスクールの分室を整備することとしている。

暴力行為は、小学校で26件、中学校で20件（前年度件数：小学校23

件、中学校8件)発生した。暴力が発生した原因としては、感情をコントロールすることができない児童・生徒が、自分の思いを相手に伝えることができず、対児童・生徒暴力、対教師暴力、器物破損へとつながったケースが多く、同様の児童生徒が繰り返す傾向にある。

(3) 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると感じている児童生徒の割合の増加

※ () 内は前年度

・小学校69.8% (68.4%)、中学校67.4% (78.7%)

昨年度との比較において小学校では同程度、中学校では低い結果となっている。

子どもたちの心の安定及び問題行動等の未然防止において相談できる大人が身近にいることは重要であり、教職員一人一人が自覚をもち、そういった存在になれるよう、今後も努めていく。

3 ウェルビーイングの向上

(1) 自分には良いところがあると思う児童生徒の割合の増加

※ () 内は前年度

・小学校87.6% (68.8%)、中学校81.5% (83.4%)

昨年度との比較において、小学校は高くなり、中学校ではやや低くなっている。児童生徒のやる気や意欲を引き出すためにも、自己肯定感を高めることはとても重要であることから、人との関わりに重点をおいた地域連携教育の充実に努めている。

(2) 友達関係に満足している児童生徒の割合の増加

※ () 内は全国平均

・小学校93.5% (90.3%)、中学校88.2% (88.7%)

全国平均との比較において、小学校では高く、中学校は同程度となった。

一人一人が多様な他者を理解・尊重し、包摂的な社会を築いていくため、共に学ぶ交流学习や共同学習、ALTとの異文化交流、地域での体験活動やライフキャリア教育など、自らとは異なる立場や地域にいる人々と接する機会や異なる環境に身を置く機会を設けた。

また、幸福感や自己肯定感、他者とのつながりなどの主観的なウェルビーイングの状況を把握し、道徳教育や特別活動(清掃や学校給食を含む)、体験活動、生徒指導など学校教育活動全体を通じて子供たちのウェルビーイング

	の向上に努めた。
今後の取組	<p>1 小中一貫教育の推進及び主体的、対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の充実、複式指導の充実</p> <p>令和5年度から全小中学校を小中一貫教育校と指定し、小中共通の学校教育目標や目指す子どもの姿、重点取組事項を設定し、学校・地域連携カリキュラムをもとに、コミュニティ・スクールの仕組みを生かして、義務教育9年間の一貫した教育活動に努めており、9年間の学びの中で児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を共有し、その地域ならではの取組が展開されている。また、小小連携、小中連携における交流学習や合同行事、遠隔合同授業など、小中一貫教育校としてのよさや強みを生かした取組が展開されるようになり、カリキュラムの中にも位置付けられている。</p> <p>今後は、取組の評価を充実させ、児童生徒の成長を可視化することにより、子どもたちに関わる全ての大人が、子どもたちの成長を確かめ、喜び合い、更なる改善意欲を高めたり、進むべき方向性を共有して、協働関係を強化したりできるよう支援していく。</p> <p>学力の向上においては、一人一人の学力定着状況を確認し、個に応じた指導の充実を図る。特に、「分からない」、「できない」をそのままにしない学びの質の向上、主体的、対話的で深い学びの充実に向けた授業改善への取組を進める。</p> <p>「分かる、できる」の実感を積み重ねさせることで、学ぶ意欲を育み、学びが好きな子どもを育てたいと考えている。</p> <p>2 いじめ、不登校、暴力行為等への対応</p> <p>いじめについては、子ども相談・支援室が継続的に全小中学校を訪問、問題を共有するとともに、各校のいじめ対策会議に参加するなど、関係機関と連携を図り、未然防止の取組の徹底を図っていく。</p> <p>また、それぞれの事案に対しては、「チーム学校」での対応を基本とし、そのための教職員の生徒指導・教育相談に係る資質能力の向上に向けた研修会等を開催し、生徒指導・教育相談の充実・強化を図る。</p> <p>不登校については、中学校区に配置されているスクールカウンセラーを積極的に活用するとともに、小中一貫教育校の強みを生かしながら、生活規律や学習規律等、指導方針の共有を図り、9年間の切れ目のない地域ぐるみによる支援体制の構築に努める。</p> <p>また、市内全小中学校において、小学校高学年から中学校3年生までの子ども</p>

	<p>もを対象に、「相談できる人がいるか」、「心が安らぐ場所があるか」等の項目について、継続的な意識調査を行う。その結果をもとに、様々な関係機関と連携を図りながら、学力保障も視野に入れ、児童生徒の居場所づくりや絆づくりの取組を推進し、一人一人の状況に応じた支援方法について検討する。</p> <p>さらには、居場所に対する子どもの選択肢を広げることを目的に、家庭教育支援チーム等の協力を得ながら、不登校の児童生徒が多い学校へのステップアップルームの拡充に向け、環境整備の検討を進める。</p> <p>暴力行為については、毅然とした態度で対応することも大切であるが、その子の行動の背景も具体的に見ていく必要がある。今後も、各学校において、誰もが存在を認められ一人一人に居場所がある学校風土をつくり、様々な体験活動を通して人と関わらせながら自尊感情を育むとともに、豊かな想像力、人と関わる力の育成に努めていくことを通して、問題行動等の減少、学校の安定につなげていきたい。</p> <p>3 ウェルビーイングの向上</p> <p>全ての子どもたちがそれぞれの多様性を認め合い、互いに高め合う協働的な学びの機会を確保することなどを通して、一人一人の能力・可能性を最大限に伸ばし、ウェルビーイングの向上を図る。その際、一人一人が持つ長所や強みに着目し、可能性を引き出して発揮させていくという視点や、多様性の尊重を重視する。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校が全国的にも増加傾向にある中で、新たに実施された萩輝きスクール分室の取組が、子どもたちの居場所づくりとして効果が出ている。 ・家から少しでも出ることが大事。外部とのつながりを持てるよう、萩輝きスクールの取組をしっかりと周知してほしい。 ・学校以外の場所に通うことに対して、人目を気にする生徒もいる。分室の設置に当たっては、子どもたちが通いやすいよう、設置場所の配慮をお願いする。

項目	小中学校における児童生徒の健やかな体を育む教育の推進	担当課	学校教育課
目的・目標	<p>各校で作成されている体力向上プログラムのもと、体育・保健体育の授業をはじめ、それ以外の時間にも、「一校一取組」により児童生徒の基礎体力の向上を目指す。</p> <p>健康増進課等と連携した食育を推進し、食生活の改善及び望ましい生活習慣づくりを通して、児童生徒の健康な身体づくりへの意識向上を図る。</p>		
実施状況・成果	<p>1 基礎体力の向上</p> <p>(1) 体力についての課題改善に、全校的に取り組む学校の割合</p> <p><u>令和5年度 100% (目標値: 100%)</u></p> <p>小中学校とも体力課題に対する意識が高く、体育科の授業の中で柔軟性や筋力アップに向けた取組を継続している。</p> <p>(2) 体力合計点において、全国平均を上回る</p> <p><u>・小学校: 5年男子 51.4 (全国 52.6)</u></p> <p><u>5年女子 54.5 (全国 54.3)</u></p> <p><u>・中学校: 2年男子 42.9 (全国 41.3)</u></p> <p><u>2年女子 48.4 (全国 47.2)</u></p> <p>小学校5年生男子は、全国平均をやや下回ったが、全体的に全国平均レベルに達している。</p> <p>(3) 運動やスポーツが好きと答える児童生徒の割合の増加</p> <p><u>・小学校: 5年男子 69.6% (全国 72.1%)</u></p> <p><u>5年女子 56.1% (全国 54.5%)</u></p> <p><u>・中学校: 2年男子 65.6% (全国 62.4%)</u></p> <p><u>2年女子 40.4% (全国 43.1%)</u></p> <p>小学校5年生女子、中学校2年生男子は全国平均を上回った。下回った学年については約2.5ポイント低く、課題が残る。</p> <p>2 望ましい生活習慣の形成</p> <p>(1) 毎日、同じ時刻に寝る子ども (定時就寝) の割合</p> <p><u>令和5年度調査における肯定的回答率の全国平均との比較</u></p> <p><u>・小学校 81.1% (全国 81.0%)、中学校 79.1% (全国 78.0%)</u></p>		

	<p>定刻就寝の割合は、小中学校ともに全国平均と同程度となっている。</p> <p>(2)朝食を欠食する児童生徒の割合の減少</p> <p>朝食を毎日食べている児童生徒の割合 ※（ ）内は前年度</p> <p><u>・小学校84.4% (82.5%)、中学校86.0% (84.8%)</u></p> <p>朝食摂取率は、昨年度と比較して数ポイント上昇しているが、ほぼ横ばいの状態である。</p> <p>定刻就寝、朝食摂取等、基本的な生活習慣の定着は生きる力を支える重要な要素の一つである。引き続き、100%に近づくよう、学校保健委員会の機能を充実させ、栄養教諭や養護教諭が中心となり、生活指導、食育指導を充実させていく。</p> <p>生活習慣の改善に向け、各家庭への理解・促進及び連携協力が必要不可欠なものとなる。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>1 基礎体力の向上</p> <p>生涯スポーツの観点から、運動好きな児童生徒の育成に向け、体を動かすことの楽しさや気持ちよさを味わわせる経験を積ませることが大切である。</p> <p>また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査で明らかになった児童生徒の課題に基づき、必要な補強運動や適切な運動量の確保による基礎体力の向上を目指す。</p> <p>何より体育の授業を充実させ、バランスの取れた体力向上を目指すとともに、小学校においては、外遊びを奨励し、体を動かすことの楽しさを十分味わわせる機会の確保に努める。</p> <p>2 望ましい生活習慣の形成</p> <p>タブレットやゲームによる生活の乱れについての報告があり、とりわけ、児童生徒の視力低下もここ数年、顕著に現れていると報告を受けている。</p> <p>児童生徒が生涯を通じて心身の健康を保持促進するために、望ましい食習慣や生活習慣を身に付けることが大切である。</p> <p>中学校区ごとに、早寝・早起き・朝ごはんをはじめ、十分な睡眠、バランスの摂れた食事、適切な運動など、規則正しい生活習慣の確立を目指し、保護者・地域との連携のもと、組織的、計画的な学校保健、食育の推進を図る。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>・部活動の地域移行により、生徒の運動量が減少することが懸念される。運動クラブへの加入を強制はできないが、子どもたちの体力が低下しないよう、地域移行に力を入れて取り組んでほしい。</p>

	<ul style="list-style-type: none">・明倫小学校では、家庭学習の中でも、運動することに取り組まれている。また、運動することで、勉強の集中力も上がるというデータもある。運動する習慣が身につくような良い取組については、学校間で情報共有して進めてほしい。・小規模校の児童生徒は、委員会活動などが忙しく、昼休みに外遊びをする時間が取れないことがある。子どもたちが楽しく運動できる時間の確保も必要。
--	---

項目	児童生徒の英語教育の充実	担当課	学校教育課
目的・目標	グローバル化が進展する中、英語の語学力の向上はもとより、コミュニケーション能力や情報発信力、広い国際的な視野とともに、異文化への理解、異なる文化を持つ人々と協働して生きていく態度等を身に付けた人材を育成する。		
実施状況・成果	<p>1 児童生徒の英語教育の充実</p> <p>(1) 中学校で英検3級程度の力がある生徒の割合の増加</p> <p>※（ ）内は前年度</p> <p>・ <u>54% (46.9%)</u> (目標値: 50%以上) (参考: 県平均51.5%)</p> <p>英検3級程度の力がある生徒の割合は、前年度を上回り、目標値であった50%以上を達成し、令和2年度の目標設定時の割合(28.8%)に比べて、大きく上昇している。</p> <p>英語学習指導員による放課後及び夏休み英検チャレンジ教室を開催し、「やりとり」、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の4領域のバランスのとれた学力が身につくよう支援した結果であると捉えている。</p> <p>また、教員の英語指導力を高めるため、英語教育に携わる全小学校教諭を対象に、体験を通して具体的な指導法を学ぶ研修会を2回実施し、31名が研修会に参加した。</p>		
今後の取組	<p>1 児童生徒の英語教育の充実</p> <p>英検について、引き続き受検を勧奨し、受検者数の増加はもとより、英語学習への関心及び意欲の向上に努める。また、授業の中で、ALTと積極的に関わるなど、「聞くこと」、「話すこと」の言語活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養う。</p> <p>教員の英語指導力を高めるため、小学校教員を対象にした研修会においては、英語教育担当者だけでなく、若手教員を中心に幅広く参加を求めていく。</p> <p>小学生対象のイングリッシュ・キャンプや中学生対象の長州ファイブジュニアの派遣事業等の周知や開催方法の工夫などを行っていく。</p>		
学識経験者の意見	<p>・ コロナ禍で、ALTの人員確保が不安定だったが、経験の長いALTが継続して配置されたことから、生きた英語を授業の中で学ぶ機会が増え、効果が出ていると感じる。</p> <p>・ 長州ファイブジュニアの出発式・報告会が、昨年度から一般公開されるようになったが、児童・生徒にも貴重な経験を伝える場を設けてはどうか。</p>		

項目	小・中・高が一体となった志教育の推進と地域とともにある学校づくり	担当課	学校教育課
目的・目標	<p>コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、地域の人的・物的資源を有効活用した学習活動を通して、郷土に誇りと愛着を持ち、地域に貢献する子どもたちの育成を目指す。生まれ育った萩のことを様々な観点から学び、地域社会の一員として自覚を持ち、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力を育成する志教育を進める。</p>		
実施状況・成果	<p>1 ライフキャリア教育の推進</p> <p>(1) 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合の向上</p> <p><u>令和5年度調査における肯定的回答率の全国平均との比較</u></p> <p>() 内は全国平均</p> <p>・ <u>小学校80.4% (81.9%)</u></p> <p>・ <u>中学校72.0% (66.3%)</u></p> <p><u>(計画策定時：平成30年度 小学校88.0%、中学校78.5%)</u></p> <p>小学校は全国平均と同程度、中学校は上回っている。高い水準は保っているが、計画策定時の値からはまだ低い状況にある。</p> <p>(2) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える児童生徒の割合の向上</p> <p><u>令和5年度調査における肯定的回答率の全国平均との比較</u></p> <p>・ <u>小学校89.1% (76.8%)</u></p> <p>・ <u>中学校70.9% (63.9%)</u></p> <p>小中学校ともに全国平均を大きく上回っており、令和4年度との比較においても大きく上昇していて、高い水準にあると言える。</p> <p>2 地域とともにある学校づくりの推進</p> <p>(1) 地域の行事に参加する児童生徒の割合の向上</p> <p><u>令和5年度調査における肯定的回答率の全国平均との比較</u></p> <p>・ <u>小学校76.4% (57.8%)</u></p> <p>・ <u>中学校58.7% (38.0%)</u></p> <p><u>(計画策定時：平成30年度 小学校83.2%、中学校76.5%)</u></p> <p>全国平均との比較においては高い水準にあるが、コロナ禍前の計画策定時と比較すると低い状況である。現在、コロナ禍に比べ地域行事が増えていること</p>		

	<p>を考えれば、今後上昇することが見込まれる。</p> <p>(2)地域の大人と子どもとの熟議の開催回数の増加</p> <p><u>・小学校（17校）総数33回、中学校（13校）総数25回</u></p> <p>昨年度、児童生徒と地域の大人との熟議が多く行われた。小規模校のみならず、規模が大きな中心部の学校においても、熟議を取り入れ、よりよい学校づくり、魅力ある地域づくりのための議論が活発に行われている。</p> <p>引き続き、学校運営の場、学習活動の場に熟議の手法を取り入れることにより、これからの時代を生き抜く資質・能力の育成を目指していく。</p> <p>3 ふるさと学習の展開</p> <p>(1)総合的な学習の時間では、自分で課題を立て情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合の増加</p> <p>※（ ）内は昨年度</p> <p><u>・小学校82.6%（65.8%）、中学校88.3%（84.5%）</u></p> <p>昨年度との比較においては、小中学校ともに上昇し、特に小学校における伸びが顕著である。各校において、探究的な学びを意識した取組が展開されている。</p> <p>(2)住んでいる地域についてもっと知ってもらいたいと思う児童生徒の割合の増加</p> <p><u>・小学校87.6%（全国78.1%）、中学校65.9%（全国63.2%）</u></p> <p>小学校、中学校とも全国平均を上回り、特に小学校では高い水準にある。地域の教育資源を学習素材とし、地域人材を活用した教育活動を展開しながら、地域の歴史、自然、産業等を継承・発展させる心情を育む取組を実施した。</p> <p>児童生徒が、課題意識をもち探究的な学びを続ける中で、ふるさとの魅力を発見し、ふるさとを大切に思う気持ちが育まれている。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>1 ライフキャリア教育の推進</p> <p>高校魅力化プロジェクト会議の中で、小・中・高が一体となった志教育を推進し、萩市ひとつづくり構想に掲げる「創造」、「協働」、「挑戦」を目指し、子どもの成長を異校種との連携や地域とのつながりの中で実感できるような支援に努めていく。</p> <p>また、小学校4年生の1／2成人式、中学校2年生の立志式の際には、市内共通の志シートを活用し、今までの自分を振り返るとともに、これからの自分を見つめさせ、一人一人が自分の言葉で「志」を発表することを通して、志を育てる教育を</p>

	<p>推進していく。</p> <p>また、社会や地域の一員としての自覚をもった子どもの育成を目指し、「人や地域のためにできること」が考えられる児童生徒の割合を増加させる取組を更に強化していく。</p> <p>2 地域とともにある学校づくりの推進</p> <p>「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向け、学校運営協議会の機能を生かした教育の充実に努める。目指す子どもの姿や身に付けさせたい資質・能力を共有し、熟議等を通して教育活動の検証・改善を進め、「学校・地域連携カリキュラム」のブランディングに努める。また、熟議の手法を様々な場面で取り入れながら、児童生徒、保護者、地域が参画した学校運営が展開できるよう支援していく。</p> <p>3 ふるさと学習の展開</p> <p>「学校・地域連携カリキュラム」を軸として、萩市の特色である世界遺産やジオパーク関連地など、萩の自然や歴史、文化等を活用した探究的な学びを推進する。</p> <p>また、「子どもが地域の先生プロジェクト」の取組を推進し、児童生徒が主体となって、地域の信頼できる大人との熟議、協働活動を展開する中で、地域の魅力を発見し、それを自分の言葉で発信できる児童生徒の育成に努める。</p> <p>さらには、地域の教育資源を活用した学習活動を展開するとともに、令和3年度に改訂した副読本（小学校：「わたしたちのふるさと萩」、中学校：「郷土 萩」）を活用し、新学習指導要領の趣旨を実現するふるさとへの誇りと愛着を育む心情を育てる。また、総合的な学習の時間等において、小学校4年生に配布している「松陰読本」を活用し、生き方、考え方を学ぶ松陰教学を通して、ふるさとの良さや魅力を実感・再発見する教育活動の推進に努める。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大井小中学校での萩商工高校生のプログラミング授業支援や、萩東中学校と萩高校生の熟議など、単発的な交流はあるが、こうした交流が進みやすい仕組みづくり、また、小学生、中学生、高校生が一緒になって活動できるような居場所づくりができれば、志教育の縦のつながりが生まれやすくなるのではないかと。 ・中学生の各種の指標が全国に比べ高い結果となっており、これまでの取組が評価できる。

項目	教育環境の整備	担当課	教育政策課
目的・目標	安全な教育環境のもとで、児童生徒が安心して学習することを目指し、計画的な施設整備及び維持管理を実施するとともに、一人一台端末の整備を行い情報化の進展に対応した機器整備等を実施し、安全で質の高い教育環境の整備及び充実を図る。		
実施状況・成果	<p>1 学校施設整備・充実</p> <p>(1)学校トイレの洋式化率（児童生徒20人当たり洋式便器数1.0以上） <u>・93.33%（目標値：100%）休校中除く</u> 椿東小学校南棟及び屋内運動場のトイレの洋式化を行った。</p> <p>(2)学校施設照明のLED化率 <u>・84.62%（目標値：100%）休校中除く</u> 小川小学校、育英小学校、大島小中学校、川上中学校、須佐中学校のLED設置工事を実施するとともに、越ヶ浜小学校、川上小学校、多磨小学校、むつみ小学校、佐々並小学校、見島中学校、福栄中学校のLED設置工事の設計を行った。</p> <p>(3)特別教室のエアコン整備率 <u>・27.6%（目標値：86%）</u></p> <p>(4)児童生徒1人1台タブレット端末の整備率 <u>・100%（目標値：100%）</u></p> <p>(5)家庭でのオンライン学習に向けた通信環境の整備率 <u>・100%（目標値：100%）</u> 令和2年度に整備したタブレット端末の活用にあたり、デジタル教材による授業に必要な大型提示装置を導入した。また、教育系の高速通信ネットワークを更新し、安定した通信の維持に努めた。</p> <p>(6)その他</p> <p>①予防保全事業 実施施設…萩東中学校（第2期）</p> <p>②施設整備事業</p> <p>ア 椿東小学校…空調機増設工事 イ 多磨小学校、越ヶ浜中学校…門扉修繕工事 ウ 萩東中学校…武道場床改修工事 エ 須佐中学校…空調機取替修繕工事</p>		

	<p>2 安心・安全な学校給食の提供</p> <p>(1) 県産食材使用率</p> <p>・ <u>71.1% (目標値70%以上)</u></p> <p>原油価格・物価高騰等の影響により、食材価格が高騰したことから、学校に対して食材高騰分を支援することにより、保護者に学校給食費の増額負担を求めることなく、栄養バランスを保った給食を提供した。</p> <p>食育及び地産地消の推進を図るため、萩産の食材を活用する「萩まるごと食べちゃろうデー」及び「地場産食材（県産100%）メニュー」を実施した。</p> <p>また、地元で生産された米の寄付を受けたことにより、地域住民との関わりも一層深まり、食育につながる取組を行うことができた。</p>
今後の取組	<p>1 学校施設整備・充実</p> <p>安全で快適な教育環境の充実を図るため、特別教室等への空調設備の整備を行う。また、生活様式の変化や、障がい者、性的マイノリティの子ども達等への配慮のためにも、学校トイレの洋式化やバリアフリートイレ等の整備を計画的に行う。</p> <p>引き続き、教職員用のパソコンの更新や、大型提示装置の整備を進め、教育環境の改善を図る。また、県内市町等と共同で導入した統合型校務支援システムにより、教職員の業務の効率化を図り、教職員が、児童生徒と向き合う時間を創出する。</p> <p>2 安心・安全な学校給食の提供</p> <p>安心・安全な学校給食を提供するため、衛生管理やアレルギー対応について、職員研修を通じ、職員の意識や技術の向上を図る。</p> <p>食材費が高騰している中、物価高騰に対する学校給食費の支援を行い、これまでと同様に栄養バランスを保つ給食の提供を行うとともに、関係機関と産地情報交換会を毎月行い、引き続き「萩まるごと食べちゃろうデー」を実施する等、地元産食材の使用に努め、地域の特色を生かした献立を用いた食に関する指導を更に充実させ、地域の食文化についての理解を深める。また、今後の給食費の単価について、見直しの検討を行う。</p>
学識経験者の意見	<p>・ トイレの洋式化について、椿東小学校が今年度で完了することは聞いているが、萩西中学校、白水小学校など、洋式化率が低い学校の洋式化も、早急に対応していただきたい。</p> <p>・ 他市では、学校給食への異物混入やアレルギーの問題などのニュースをよく見かける。萩市は特に、共同調理場から配送する学校が多い。調理場内だけでなく、配送員、学校の先生ともよく連携して、安心・安全な給食の提供に努めてほしい。</p>

	<ul style="list-style-type: none">・給食を急いで食べて、のどに詰まらせる事故が全国的にある。食べる時間を十分確保するとともに、よく噛んで食べるなど、食事の指導についてもしっかり行ってほしい。・理科室や音楽室など、専門の教室でしかできない授業内容もあり、異常な暑さが続いていることから、特別教室のエアコン設置について、早急に対応していただきたい。・屋内運動場で行事を行うこともあるため、スポットクーラーの導入を検討してほしい。
--	---

項目	市内高等学校の魅力化支援	担当課	教育政策課
目的・目標	<p>中学生が地元の高校に進学しやすい環境を整えることや、市内高校と中学校の連携強化を図ることにより、地元高校への進学率の向上を目指す。</p>		
実施状況・成果	<p>1 地元の高校へ進学しやすい環境の整備</p> <p>(1) 萩市内中学生の萩圏域の高等学校への進学率</p> <p>・令和5年度市内中学校卒業生73.0%（目標値80%）</p> <p>高校に遠距離通学する高校生を対象にした列車・バス定期代の一部助成のほか、離島等に居住する通学困難な女子高生を対象とした女子寮の運営等、市内高校への進学を支援する事業を実施した。</p> <p>市内高等学校、市立中学校及び教育委員会が高校魅力化への方策を協議する場（高校魅力化プロジェクト会議）を設け、連携して市内高等学校への進学者確保のための取組を協議した。</p> <p>また、市内高等学校に地域連携サポーターを配置し、市内高等学校の情報発信、探究活動の支援を行った。</p>		
今後の取組	<p>1 地元の高校へ進学しやすい環境の整備</p> <p>引き続き市独自の施策として、市内高校への進学を支援する事業を実施する。</p> <p>継続して、高校魅力化プロジェクト会議により、小中学校、高校及び教育委員会の連携強化を図る。</p> <p>また、探究的な学びを通じて、これからの産業界が求める資質の育成や、創造する力、主体的に地域に関わる力を育て、市内外に魅力的な教育活動の取組を情報発信し、萩市で学びたい、市内の高校に進学したいと思う環境づくりを推進する。</p> <p>島しょ部、市内遠隔地や市外、県外からの生徒が安心して市内高校に進学できるよう、令和6年4月から高校生男子寮を開設するとともに、市内の民間下宿を利用する場合に下宿費の補助を行う。</p> <p>連携協定を締結している社会創発塾の萩探究部やアスリートキャリアセンター等によるスポーツ指導者育成などにより一層の高校魅力化を支援する。</p>		
学識経験者の意見	<p>・市内高等学校では、様々な特色ある教育活動をされていて、他市に劣らない教育活動が行われていると思っているが、その情報があまり入ってこない。学校の管理職の皆さんは、十分理解されていると思うが、特に、中学生の進路指導をされる、現場の先生方にしっかり情報共有していただきたい。また、通学費、下宿</p>		

	<p>費の補助制度等についても、各ご家庭へしっかり情報が伝わるよう周知活動をお願いする。</p> <ul style="list-style-type: none">・一部の高等学校では、始業が早いため、山口方面からのバスでは、学校に間に合わないという話を保護者から聞く。交通網についても問題がないか確認していただきたい。また、通学費補助制度については、現在、定期券の補助のみとなっているが、バスや列車の運行時刻の問題で、現実的には自家用車による送迎も多いと聞く。自家用車での送迎への補助についても検討していただきたい。・下宿費の支援は、遠隔地の生徒には、大変ありがたいので、継続していただきたい。
--	--

項目	生涯学習の基礎づくり	担当課	文化・生涯学習課
目的・目標	<p>生涯にわたって、市民一人一人が学習しようとする意欲を高め、幼児期から成人期に至るまで、ニーズに応じた学習機会を提供する環境を整備する。</p> <p>とりわけ、親学講座等による家庭教育力の向上を図る取組、地域の中で受け継がれ、守られてきた文化や伝統を次代へ継承する活動への支援、学習成果を発表する場でもある公民館等の社会教育施設の整備の3点を中核に、市民と行政が協働した取組を推進する。</p>		
実施状況・成果	<p>1 家庭教育力の向上</p> <p>(1)親学講座、子育て講座、保護者カフェの開催</p> <p>・実施回数 58回 (目標値：年間70回以上)</p> <p>(子育て講座46回 (内保護者カフェ9回) 親学講座12回)</p> <p>・参加者数 1,316人 (目標値：2,200人以上)</p> <p>保育園及び各小中学校の参観日、就学時検診等を活用した子育て講座及び公民館等における未就園児とその保護者を対象とした親学講座の実施により、子育てに係る悩みの解消を図る等、家庭での子育てを支援した。</p> <p>また、保護者同士の繋がりをつくり、不安を取り除くという目的のため、子育て講座や学期末の保護者懇談会等の機会を利用し、保護者カフェを開催した。(家庭教育支援チーム主催)</p> <p>(2)子ども情報誌「あ、そ、ぼ」の発行</p> <p>・年間6回 (目標値：年間6回以上)</p> <p>幼児から中学生までの子ども及び保護者を対象とした、様々な子育てイベント情報を提供する情報誌の発行を行った。(5,000部/回 発行)</p> <p>(3)NPO萩子どもセンター事業への支援</p> <p>・実施事業 年間204回 (目標値：年間165回以上)</p> <p>舞台鑑賞事業(8回)、子どもの諸活動支援事業(108回)、子育て支援事業(64回)、子どもと文化に関する活動広報紙(12,150部/年)の発行及びFM等による情報発信(24回)を行った。</p> <p>(4)家庭教育支援チームの活動支援</p> <p>・登録チーム数 全8チーム</p> <p>2 地域文化の継承及び保護・活用</p> <p>(1)伝統芸能フェスティバルの開催</p>		

- ・隔年開催のため令和5年度は開催なし

(目標値：出演団体数11団体以上、来場者数300人以上)

(2) 萩市美術展の開催

- ・出展作品数 小中学生の部 752点、高校・一般の部 84点
招待作家作品展示数 29点 計870点
- ・入場者数 1,333人

市民の美術作品等を募集・展示する美術展を開催することにより、地域に根ざした文化・芸術活動の推進を図った。

3 市民協働による生涯学習の環境づくりの推進

(1) 社会教育施設の充実

- ・公民館等施設の整備に係る整備内容の公表の実施

三見公民館…事務室空調機設置工事

田万川コミュニティセンター（江崎公民館）…照明増設工事

田万川コミュニティセンター（江崎公民館）…女子トイレ洋式化工事

むつみ農村環境改善センター（吉部公民館）…多目的ホール床改修工事

むつみコミュニティセンター（高俣公民館）…高圧受変電設備更新工事

須佐公民館・文化センター…LED設置工事

須佐公民館…屋上手摺改修工事

須佐公民館…高圧気中開閉器更新工事

弥富交流促進センター（弥富公民館）…多目的ホール暗幕取付工事

(2) 自主活動・市民活動の推進

- ・合同作品発表会の開催 出展団体数137団体（目標値：100団体以上）

生涯学習の推進と個人又はグループの創作意欲の向上のため、日ごろの生涯学習活動の発表の場として、作品展を開催した。

(3) 生涯学習運営体制の充実

- ・社会教育委員会議の開催 年間2回（目標値：年間3回以上）

- ・公民館運営審議会の開催 年間24回（目標値：年間25回以上）

官民協働の生涯学習の推進のため、生涯学習への理解を深め、地域の課題や住民のニーズを把握し、それを事業に反映させるため、社会教育委員会議等を開催し、生涯学習の推進に努めた。

地域住民からなる公民館運営審議会を組織し、公民館における各種事業の企画運営について審議する等、住民と行政が意見を交えながら生涯学習を推進する体制を整備し、積極的な活動を実施した。

	<p>(4) 市民協働による生涯学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館まつり等の開催 参加者数 5, 258人 (目標値：年間 12, 000人以上) ・ 公民館運営審議会の開催 年間 24回 (目標値：年間 25回以上) (再掲) <p>公民館まつりを開催し、地域住民、団体相互の交流や活動の発表の場づくりを行った。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>1 家庭教育力の向上</p> <p>様々な媒体を活用した情報発信を行うことで、安心して子育てができる環境を整え、これまでの取組をより充実・発展したものにする。また、子育て世代が孤立しないような体制を構築し、参加しやすい日程等の検討を行う。</p> <p>令和5年度末において、家庭教育支援チームが8団体登録されており、今後もやまぐち型家庭教育支援チームの立ち上げに向け、学校・家庭・地域と連携を深める。</p> <p>また、登校渋りや集団での学習や生活が困難となった児童生徒に対して、家庭教育支援チームが学校等と連携し支援することで、当該保護者の悩み・不安を軽減する支援体制の構築に向けた取組を行う。</p> <p>2 地域文化の継承及び保護・活用</p> <p>本市がもつ文化・芸術をより一層向上・普及させていくために、市民団体等による文化イベントの開催等に対する支援を継続していくことで、市民が文化・芸術活動に参画・鑑賞する機会を創出する。</p> <p>また、社会教育の立場から、地域ゆかりの文化資源や歴史・文化遺産の活用及び地域の中で継承されてきた伝統芸能、文化の保存を支援していくことで、市民一人一人のふるさとに対する愛着を育む。</p> <p>令和6年度は、萩民謡「男なら」の保存・継承に向けて、中学生への指導、各種行事での発表の機会創出に取り組む。</p> <p>3 市民協働による生涯学習の環境づくりの推進</p> <p>各公民館及びコミュニティ施設の点検を実施し、引き続き、適切な施設管理を行い、必要に応じて、計画的に改修を進める。未耐震の川上公民館や田万川コミュニティセンターについては、施設の在り方を検討していく。</p> <p>生涯学習の体制を充実させるべく、社会教育委員会議や公民館運営審議会の場において、生涯学習に係る課題や解決策を協議し、市民と協働した生涯学習の環境づくりを推進する。</p>

<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援チームの会議で、ネット依存による不登校の増加が県内で増えているという講義を受けた。萩市内は他市に比べると、不登校が、まだ少ない方だと思うが、徐々に増加傾向にある中、家庭教育支援チームが、不登校の児童生徒を支援し、学校復帰に繋がる活動をしている。引き続き、家庭教育支援チームの活動の理解が深まり、活動の輪が広がるよう周知活動に努めていただきたい。特に、学校に活動内容をしっかり伝えていただいて、家庭教育支援チームと学校、保護者との連携が深まることを期待する。また、市役所の各部署も横の連携を深めて、不登校支援に当たってほしい。 ・ささラブ応援隊でスポーツ教室を実施することで、問題が解消したケースもある。運動や遊びが、子どもたちが社会に出ていくエネルギーにつながることもあるので、様々な体験活動に取り組んでほしい。 ・家庭教育支援チームの役割が大きくなってきており、予算面の支援も必要ではないか。
-----------------	--

項目	生涯学習の場とひとづくり	担当課	文化・生涯学習課
目的・目標	<p>市民一人一人の多様な学習ニーズに応える学習機会を提供するとともに、学習を支援する人材や指導者の育成及び情報発信に積極的に取り組む。</p> <p>学習機会の提供においては、心豊かで健全な人格形成を図るため、地域、学校、家庭が連携し、各年代のニーズに応じた講座や教室の開設に向けた支援を行う。</p> <p>また、地域人材や地域素材を有機的に結びつけることで、次世代の育成に努め、多くの経験・知識・技能が継承される仕組みづくりを構築する。加えて、誰もが生涯学習の機会に触れることができる情報発信に努め、好機を逃さない情報提供に努める。</p>		
実施状況・成果	<p>1 ニーズに合った学習機会の提供及び学習成果を発揮する機会の創出</p> <p>(1) 公民館各種講座の開催</p> <p>・実施回数 年間334回（目標値：年間450回以上）</p> <p>(2) 至誠館大学との共同講座の開催</p> <p>・実施回数 年間9回（目標値：年間5回以上）</p> <p>各公民館等で、住民からの様々なニーズによる講座・教室の開設に努めた。</p> <p>2 青少年の生涯学習の推進</p> <p>(1) 未来を切り拓くひとづくりセミナーの開催</p> <p>・参加者数 1,298人（目標値：年間1,000人以上）</p> <p>令和6年1月19日開催</p> <p>講師 元卓球日本代表 石川 佳純 氏</p> <p>演題 「私の卓球人生を支えたもの」</p> <p>萩市ひとづくり構想を踏まえ、青少年等がこれからの人生の力となり、豊かな気持ちを育むヒントになることを願って開催した。</p> <p>(2) 放課後子ども教室の開催</p> <p>・実施回数 年間831回（目標値：年間1,150回以上）</p> <p>市内全ての児童を対象として、安心・安全な子どもの居場所を設けるとともに、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等を行った。</p> <p>(3) ユースふれあいスペース事業の実施</p> <p>・実施回数 年間154回（目標値：年間130回以上）</p> <p>県内では、萩市のみが実施する事業であり、様々な事情により高校等を中途</p>		

	<p>退学や進学できなかつた青少年に対し、居場所づくりを目的とした自立に向けた指導、支援を行った。</p> <p>3 高齢期の学習活動の推進</p> <p>(1) 高齢者教室・健康教室の開催</p> <p>・実施回数 年間158回（目標値：年間170回以上）</p> <p>(2) 高齢者教室作品展の開催</p> <p>・出展作品数 169点（目標値：120点以上）</p> <p>高齢者教室、健康教室等を開催し、健康疾病予防等に関する教育の機会や、生きがいつくりにつながる講座等の充実を図った。</p> <p>4 地域の人材発掘と養成</p> <p>(1) 放課後子ども教室の開催</p> <p>・指導者登録数 年間145人（目標値：年間170人以上）</p> <p>「地域の子どもは地域で育てる」を目標に、放課後又は休日に放課後子ども教室を開催し、安心・安全な居場所づくりを推進した。</p> <p>5 生涯学習の情報発信</p> <p>(1) 広報はぎ、公民館だより、FMはぎ等による情報発信の実施</p> <p>・公民館だよりの発行回数 年間127回（目標値：年間110回以上）</p> <p>生涯学習につながる各種講座、行事等について、各公民館だより、広報はぎ、ホームページ、まちづくりメニュー等の各種メディアを通じ、広く情報発信した。</p> <p>6 中学校部活動改革の推進</p> <p>地域クラブ移行に向けた試行的な取組として、地域人材の協力のもと、生け花、茶道、合唱の体験活動を行った。合唱では、山口県中学校文化連盟総合文化祭や、市主催のオーケストラコンサート等に出演するなど、児童生徒が発表するための機会を提供することができた。</p> <p>また、令和6年度以降に向けて、地域指導者の掘り起こしを行い、新たに12種類の文化活動体験メニューを準備した。</p>
今後の取組	<p>1 ニーズに合った学習機会の提供及び学習成果を発揮する機会の創出</p> <p>様々な年代のニーズに沿った学習機会及び学習内容の充実に努め、地域社会に貢献し、活躍できる人材育成のための学びの成果を披露する機会を提供する。</p>

	<p>2 青少年の生涯学習の推進</p> <p>ふるさとに誇りと愛着をもつ青少年の育成を進め、「高い志」と「生き抜く力」を身につけるための生涯学習の推進に努める。</p> <p>また、一流の講師から自らの夢を実現するためのヒントを学ぶ「未来を切り拓くひとづくりセミナー」を引き続き開催していく。</p> <p>ユースふれあいスペース事業では、社会から孤立することがないように、小学生から大人までを含めた包括的な支援体制の整備に努める。</p> <p>3 高齢期の学習活動の推進</p> <p>知恵や経験、技能を社会に生かし、次代へつなぐという崇高な目的の下、高齢期のいきがいとなる講座を充実する。</p> <p>4 地域の人材発掘と養成</p> <p>積極的に地域に参画する人材を掘り起こすとともに、人材育成のための時間を設け、その機会を創出する。また、地域の課題解決に向けて、子育て世代や生産年齢世代でも参加しやすい講座を企画する。</p> <p>5 生涯学習の情報発信</p> <p>社会教育施設で開設される各種講座や行事を全世代に発信していくために、様々な情報媒体を駆使し、目的や成果を意識した活動が展開されるように努める。</p> <p>6 中学校部活動改革の推進</p> <p>スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、令和6年度に、12種類（生け花、茶道、合唱、朗読、探究活動体験、日本舞踊、長唄三味線、二胡、オカリナ、絵画・デッサン、竹紙ものづくり、演劇）の文化活動体験メニューを用意した。</p> <p>このうち、生徒から申し込みのあった9種類（生け花、茶道、合唱、探究活動体験、日本舞踊、長唄三味線、絵画・デッサン、竹紙ものづくり、演劇）について、実証事業として取り組んでいるところであり、今後も、文化芸術活動の指導者確保に努める。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>・部活動の地域移行の取組の中で、CS1プロジェクトが各中学校で話し合われていると思うが、これまでの部活動のように、1つの競技種目を年間通して行うのではなく、時期や地域特性を考慮して、幅広い活動を検討してほしい。須佐中学校で</p>

	設立された総合文化部では、子どもたちが地域住民と話し合っ て、自分たちでやりたい活動や地域の課題解決などに取り組み始 めている。こうした活動も参考になる。
--	---

項目	生涯学習によるまちづくり	担当課	文化・生涯学習課
目的・目標	<p>市民・行政・関係機関の連携及び協働を図り、学習活動を通じた地域コミュニティの活性化によるまちづくりに取り組む。</p> <p>市民一人一人が地域の担い手として、自助・共助の精神を大切にしながら、地域の課題に参画していくため、各地域コミュニティ団体の活動を支援する。</p> <p>また、人権を尊重し合う共生社会の実現のため、市民一人一人が多様な人権課題に向き合えるような講座を開設する。</p> <p>また、公民館を中心とした生涯学習によるまちづくりを推進していくため、地域総がかりで子どもたちが活躍する場を創出し、地域・学校・家庭・行政が連携、協働し、子どもたちの学びや育ちを支える。</p>		
実施状況・成果	<p>1 地域づくりの推進</p> <p>(1) 婦人会事業への支援</p> <p>・実施事業 年間56回（目標値：年間60回以上）</p> <p>地域の課題を解決するため、各地域コミュニティ団体の活動支援を行った。</p> <p>(2) 公民館運営審議会の開催（再掲）</p> <p>・公民館運営審議会の開催 年間24回（目標値：年間25回以上）</p> <p>(3) 人権教育講座及び人権教育指導者養成講座の開催</p> <p>・実施回数 年間19回（目標値：年間22回以上）</p> <p>市民一人一人が人権問題を正しく理解し、人権感覚を身に付け、人権を尊重し合う共生社会の実現に努めた。</p> <p>2 地域学習の推進</p> <p>(1) 萩ユネスコ協会文化講演会の開催</p> <p>・文化講演会来場者数 年間100人（目標値：年間100人以上）</p> <p>3 青少年の地域に関わる体験活動等の推進</p> <p>(1) ジュニアリーダーズクラブ事業の開催</p> <p>・実施回数 年間12回（目標値：年間10回以上）</p> <p>様々な活動を通じて、社会の一員として社会貢献することの意義や責任を学び、子ども会活動の企画・運営を担った。</p> <p>(2) 家庭の日カレンダーの小中学校への配布</p>		

- ・ 小学校新入生への家庭の日クリアファイル配布率 100%
(目標値: 100%)

毎月第3日曜日の「家庭の日」について、家族がふれあう時間を共有し、コミュニケーションを図ることを目的に、各地域の青少年育成市民会議を通じ、市内全小学校に啓発グッズを配布した。

(3) 親学講座、子育て講座、保護者カフェの開催 (再掲)

- ・ 実施回数 年間58回 (目標値: 年間70回以上)
(子育て講座46回 (内保護者カフェ7回) 親学講座12回)
- ・ 参加者数 年間1,316人 (目標値: 年間2,200人以上)

(4) 放課後子ども教室を開催する小学校の割合

- ・ 100% (目標値: 100%)

それぞれの小学校区において、地域の特色を生かした放課後子ども教室を開催した。

(5) 子ども会事業への支援

- ・ 実施回数 年間71回 (目標値: 年間70回以上)

少子高齢化が進み子ども会離れが進む中、各公民館が子ども会事務局を務め、指導者、育成者と共に取組を行った。

4 地域連携教育の推進

(1) 伝統芸能・地域文化教室を実施する小学校の割合

- ・ 100% (目標値: 100%)

各小学校で実施している、伝統芸能及びふるさとの歴史、史跡探訪等、調査、研究活動に対して、各公民館が協力、連携を行った。

(2) 親学講座、子育て講座、保護者カフェの開催 (再掲)

- ・ 実施回数 年間58回 (目標値: 年間70回以上)
(子育て講座46回 (内保護者カフェ7回) 親学講座12回)
- ・ 参加者数 年間1,316人 (目標値: 年間2,200人以上)

(3) 放課後子ども教室の開催 (再掲)

- ・ 実施回数 年間831回 (目標値: 年間1,150回以上)

(4) 地域学校協働活動を実施する中学校区の割合

- ・ 100% (目標値: 100%)

幼児期から中学校卒業程度までの子どもの育成・学習を地域ぐるみで見守り、支援するための地域協育ネットを全中学校区に設置し、家庭・学校・地

	<p>域が連携した子育て活動の推進に努めた。</p> <p>5 文化にふれあい親しむ環境づくりの推進</p> <p><u>・市民ギャラリーの企画展示実施件数 年間31件</u></p> <p><u>(目標値：年間20件以上)</u></p> <p>市民や文化団体による創作作品の展示発表や市民が文化芸術に親しむための鑑賞機会の提供に努めた。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>1 地域づくりの推進</p> <p>地域住民が自助、共助の精神をもって、地域の諸課題の解決に取り組めるよう、地域活動の拠点である公民館が中心となって、コミュニティ活動の活性化を支援する。</p> <p>また、心身ともに健全な青少年の育成に努めるため、子ども会育成団体の相互の連絡調整及び活動の充実を図るとともに、女性の教養活動を支援するため、市内単位の婦人会相互の連絡調整を図るため、公民館が中核となって、活動を牽引する。</p> <p>2 地域学習の推進</p> <p>次世代に地域の歴史や文化、自然、産業等を語り継ぐことの大切さの観点から、伝統芸能・地域文化にふれあう機会の充実を図るとともに、地域の諸課題やまちづくりへ参画するための方策を模索する。</p> <p>3 青少年の地域に関わる体験活動等の推進</p> <p>幼少期からの切れ目のない家庭支援・地域支援の積み重ねの上に構築された「地域を愛し、社会に貢献できる」人材を育成するため、文化活動やボランティア活動への青少年の積極的な参加を推進する。</p> <p>また、様々なイベント活動を通じて、子ども会事業の必要性の周知・理解に努めるとともに、インリーダ研修会等の体験活動を通じて、子どもたちの自己有用感の醸成に努める。</p> <p>4 地域連携教育の推進</p> <p>コミュニティ・スクールを核とした地域協育ネットの仕組みを生かして、子どもたちとの熟議の機会を増やし、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを支援し、自己肯定感を高め、郷土愛に満ち溢れ、地域貢献・社会貢献に参画していく子どもたちを育成する。</p>

	<p>また、公民館長を地域学校協働活動推進員に公民館長を委嘱することで、地域の教育資源や人材と学校教育との繋がりを深め、地域連携教育を推進する。</p> <p>5 文化にふれあい親しむ環境づくりの推進</p> <p>市役所ロビーコンサートや市民ギャラリー等の活用を通じて、市民誰もが文化芸術を鑑賞、参加及び創造できる環境づくりやこれからの文化芸術を創る人づくりを推進する。</p>
学識経験者の意見	<p>・令和3年度から令和5年度にかけて、旭中学校区で行われた人権教育総合推進地域事業では、子どもと高齢者を含む地域住民との交流を通して、ふるさとを大切にする気持ちが醸成されており、評価できる。</p>

項目	生涯スポーツの推進	担当課	スポーツ振興課
目的・目標	<p>全ての市民が、競技スポーツにとらわれず、生涯を通じて、いつでも、どこでも、誰でも親しめるグラウンド・ゴルフやウォーキング、体操、ニュースポーツなど身近に行うことができるスポーツや運動、レクリエーションをはじめ、自分にあったスポーツを主体的に行うことができ、いきいき暮らせるまちづくりを目指します。</p>		
実施状況・成果	<p>1 幼児期の体力の向上</p> <p>(1)総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団に係る周知（広報掲載等）</p> <p>総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団に係る活動内容や、募集の周知を行った。（目標値：年1回以上）</p> <p>また、運動習慣の定着と体力の向上に向け、スポーツ医・科学の知見も取り入れながら、幼児期・ジュニア期のスポーツ指導者の指導力向上を図り、運動に親しむ幼児や児童に対する安心・安全なスポーツ活動の場の提供を心がけた。</p> <p>2 生涯スポーツの推進</p> <p>(1)週1回以上スポーツをする成人の割合（目標値：65%以上）</p> <p>生涯スポーツにグラウンド・ゴルフを位置付け、総合型クラブとの協働により、大会を実施した。参加者は68人であったが、参加者からは大変好評であった。</p> <p>また、児童館と協働で実施した「わくわくキッズフェスタ」においては、グラウンド・ゴルフ体験会を行い、親子208人の参加があった。</p> <p>(2)体育施設の年間利用者数</p> <p><u>・196,597人（目標値：350,000人以上）</u></p> <p>令和5年5月から、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、利用制限を設けることなく、基本的な感染予防対策を徹底した上で、体育施設の開放を行った。</p> <p>また、年度当初に予定していた大会については、概ね予定どおり実施に至ったが、大会参加者や、一般利用者の減少などの要因により、目標値には大きく届かなかった。加えて、各地域においても同様で、スポーツ大会の開催を企画する等、スポーツに積極的に関わる取組を推進したが、参加者も集まらなかったことから、改めて、スポーツ大会等に係る情報を発信し、スポーツ活動の普及・啓発に努めた。</p>		

	<p>3 障がい者スポーツの推進</p> <p>(1)障がい者スポーツボランティアの参加者数 <u>（目標値：100人以上）</u></p> <p>令和4年度から、パラスポーツを通じた共生社会の実現を目指すため、障がいの有無に関わらず「いつでも、どこでも、誰とでも」楽しめる取組を行うため、パラリンピック正式種目の「ボッチャ競技」の普及を図った。</p> <p>ボッチャ体験会等を3回実施した結果、67名の参加者があり、スポーツボランティアとして28名の協力があつた。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>1 幼児期の体力の向上</p> <p>至誠館クラブ等と協働し、子どもたちが「楽しみながら」、「積極的に」体を動かすことを意図した運動など、スポーツの遊びを味わえる機会を提供できるよう、アクティブ・チャイルド・プログラムを実践し、延べ24回実施された。</p> <p>各回約30名の参加者があつたが、至誠館クラブの会場の広さでは、参加者の受入れについて限りがあることから、今後、社会体育施設を会場とするなど、受入れ拡大の検討を行い、引続きスポーツを好きになる子どもたちの育成に努める。</p> <p>2 生涯スポーツの推進</p> <p>グラウンド・ゴルフの普及や推進として、各地域の公民館やスポーツ推進委員等と協働し、大会や体験会の実施に努めるとともに、主に若い世代に対しても、学校活動での指導を行うなど普及を努める。</p> <p>3 障がい者スポーツの推進</p> <p>社会福祉協議会や障がい者スポーツ協会と連携し、大会の実施や障がい者スポーツボランティアの育成に努める。</p> <p>令和5年度は、パラリンピックの正式種目である、ボッチャ競技の体験会や小規模な大会を行い、多くの方に参加をいただいた。</p> <p>引き続き、市民の皆様の安心・安全なスポーツの場の提供に努め、参加される方々のスポーツの推進に繋げていきたい。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>・子どもたちのスポーツに関する興味は、アニメやオリンピック等、時期によって、興味がある競技種目が異なる。バスケットボールやバレーボールなど、ネットやゴールの設備が必要な競技種目は、体育館の占用利用になるので、個人では、気軽に使用の許可を受けることが難しい。様々な競技種目を体験できる機会を増やしてほしい。</p> <p>・部活動の地域移行の中で、様々な団体競技種目を選択できるよう、また、子ども</p>

	たちが集まりやすいような仕組みづくりを進めてほしい。
--	----------------------------

項目	競技水準の向上	担当課	スポーツ振興課
目的・目標	<p>優秀な選手の育成のために、中・長期的な観点から計画的に選手及び指導者の育成等に取り組み、優れた選手と指導者の活用により、地域の競技水準の向上を目指す。</p>		
実施状況・成果	<p>1 競技水準の向上</p> <p>(1)全国大会等へ出場する選手</p> <p>・ <u>50件（目標値：年間85件以上）</u></p> <p>全国大会出場激励会を7回開催。全国大会に出場する個人及び団体に対して補助を行うことにより、優れた選手等の育成に資する取組を実施した。</p> <p>また、体育協会やスポーツ少年団、学校関係の取りまとめを行い、引続き大会出場に対する支援に努めた。</p> <p>なお、本市在住のオリンピックを引き続き支援するため、カヌー協会と協働して、川上特設カヌー競技場の練習環境の整備及び練習日程の調整を行った。</p>		
今後の取組	<p>1 競技水準の向上</p> <p>オリンピックのレガシーの一つである「スポーツ・健康」について、この機運を継続できるよう、各競技団体などが行う大会への参加について、今まで以上に周知に努め、スポーツに関する意識の向上を図り、スポーツ参加率の増加を目指す。</p> <p>また、若者の人材育成を図るため、オリンピックなどのトップアスリートとの交流の場を積極的に設けるなど、周知活動を図るとともに、未来への夢や希望を抱く機会の提供に努める。</p> <p>今後も萩市体育協会、スポーツ少年団、各競技団体等との連携強化及び全国大会等出場者への支援に努める。</p>		
学識経験者の意見	<p>・市報等で全国大会出場など、子どもたちの活躍を多く見かけるようになった。オリンピックに出場する県内出身者のニュースも多く見かける。カヌーの岡崎選手に続く、オリンピック選手を是非、育てていただきたい。</p> <p>・オリンピック報告会のようなものが開催できれば、子どもたちの励みになる。</p>		

項目	スポーツ人材の育成	担当課	スポーツ振興課
目的・目標	<p>次代を担う子どもたちの心身をスポーツによって健やかにたくましく育むとともに、公正・規律を尊ぶ人間性の涵養^{かん}に取り組む。また、スポーツ指導者やボランティア等スポーツを支える人材を育成する。</p>		
実施状況・成果	<p>1 将来のスポーツ活動を担う人材の育成</p> <p>(1)小学4～6年生のスポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブ等加入率</p> <p>・<u>38.1%</u>（目標値：40%以上）（参考：県内19市町平均26.75%）</p> <p>スポーツ少年団や体育協会加盟団体の指導者に対し、スポーツ指導者講習会等を実施し、指導者育成の取組を行った。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、基本的な感染予防対策の徹底に関して、体育協会やスポーツ少年団に対して周知に努めた。</p> <p>2 地域のスポーツを支える人材の育成</p> <p>(1)指導者の育成</p> <p>令和5年度から、アスリートキャリアセンター主催により、安全安心に指導を行うための指導者育成を目的とした『クラブコーチ育成カリキュラム』を用いて研修会を2回実施し、52名の参加があった。この、『クラブコーチ育成カリキュラム』には、チームマネジメント手法、エビデンスに基づく効果的な運動指導の2つの特徴があるため、様々な種目の指導者に受講してもらえるよう周知に努める。</p> <p>(2)スポーツボランティアの参加者数</p> <p>・<u>年間累計1,412人</u>（目標値：年間累計1,600人以上）</p> <p>萩城下町マラソンや萩市民駅伝大会の開催に当たり、延べ約1,400人以上のスポーツボランティアや地域住民のボランティアの方々の協力のもと、大会を実施した。</p> <p>また、スポーツ推進委員の研修会については、県、中国、全国で研修会が実施され、延べ26名の参加があった。</p>		
今後の取組	<p>1 将来のスポーツ活動を担う人材の育成</p> <p>指導者の人材育成について、引き続きスポーツ少年団指導者連絡協議会、体育協会及び総合型地域スポーツクラブと協働し、大学などの教育機関とも積極的に連携を図る。</p>		

	<p>また、スポーツ合宿誘致等により、スポーツ人材の育成のひとつとして、子どもたちの自発性や自主性を伸ばすこと、併せて、スポーツへの興味関心を持ってもらい、社会性、豊かな人間性を育む意味でも大変重要であることから、トップアスリートとの交流機会を創出し、将来トップアスリートを目指す子どもたちの育成に努める。</p> <p>2 地域のスポーツを支える人材の育成</p> <p>指導者の育成について、クラブコーチ育成カリキュラムを用いて、引続きアスリートキャリアセンターとの連携を図り研修会を行い、多種目にわたる指導者の育成に努める。</p> <p>スポーツボランティアの育成について、広報はぎの活用やSNS等による周知のほか、気軽にボランティアに参加できるスポーツイベントの開催に努める。</p> <p>スポーツ推進委員については、各地域でのスポーツ活動のボランティアにとどまるのではなく、積極的な自主活動でのスポーツ推進が求められることから、今後も研修会への積極的な参加を呼びかけるなど、自主事業を実施するなど、主体的な活動につながるよう支援に努める。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>・スポーツ少年団のコーチ、監督は全員、クラブコーチ育成カリキュラムを受講されているのか。一部のチームで、指導者らしからぬ行動が見受けられた。スポーツには、社会性や豊かな人間性を育む力があり、指導者の姿に子どもたちは影響を受ける。指導者研修では、指導者にスポーツマンらしさをしっかり理解していただけるような研修を行っていただき、子どもたちの精神面を成長させられる指導となることを望む。</p>

項目	スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化	担当課	スポーツ振興課
目的・目標	地域特性を考慮し、スポーツの有する多様な可能性を活用するとともに、市民が主体となって推進されるスポーツ活動の環境づくりへの取組を通じ、交流人口の拡大による地域の活性化を促進する。		
実施状況・成果	<p>1 スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化</p> <p>(1) スポーツイベントの参加者数</p> <p>・年間累計4,188人(目標値:年間累計6,000人以上)</p> <p>本市のスポーツ振興の主要事業である萩城下町マラソン、萩往還ワンデーウォークのほか、競技団体等が実施する大会等に対して支援を行った。</p> <p>しかしながら、新型コロナウイルスの発生以降、各イベントにおいて、募集定員に制限を設けての開催としたことから、目標値を下回ったが、イベント開催に向け、実施体制の構築について取組を行い、安心・安全な大会の開催に努めた。</p> <p>・市内スポーツイベントの運営に係る補助・支援</p> <p>①萩城下町マラソン大会</p> <p>昨年は、3年ぶりに全国から募集定員を2,000名と上限を設けて開催した。今年度は、基本的な感染予防対策を徹底した上で、全国から募集定員を3,000名と上限を設けて開催した。</p> <p>今大会は、ゲストランナーとして、連携協定を締結している青山学院大学陸上競技部から2名の選手に参加してもらい参加者から好評であった。</p> <p>②萩市駅伝競走大会</p> <p>一昨年から、市内中心部をスタート・ゴールとして、安心・安全に実施ができる5区間によるコース(1区間約3キロ)に変更して開催した。</p> <p>参加チーム数は、一般A56チーム、一般B20チーム、中学男子14チーム、高校男子9チーム、女子7チーム、合計106チームで、726名のエントリーがあった。開催後のアンケートでは、沿道の応援やコースの設定(距離等)など好評であったことや、連携協定を締結している青山学院大学陸上競技部で箱根駅伝に出場した選手2名がゲストとして出場したことで、参加者との交流が図られ大変好評であった。</p> <p>③萩往還ワンデーウォーク</p>		

	<p>令和5年度は、通常の萩往還コースを使用して、佐々並地域をスタートして、萩市民体育館をゴールとする佐々並コースと、明木地域をスタートとして、萩市民体育館をゴールとする明木コースの2コースで実施した。</p> <p>募集定員を、県内外問わず各コース500名と上限を設けて開催した。</p> <p>参加者からは好評であった。</p> <p>※このほか、スポーツ少年団駅伝競走大会は悪天候が予想されたため中止となった。</p> <p>・カヌー体験教室の開催</p> <p>山口県カヌー協会に委託し、カヌー体験教室を実施した。</p> <p>開催実績 5月から11月まで全44回</p> <p>延べ327人参加（前年比 参加者1人増）</p>
<p>今後の取組</p>	<p>1 スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化</p> <p>スポーツを通じた交流人口の拡大や地域の活性化につながるよう、地域資源や特性を活かしたスポーツツーリズムの推進や、地域におけるスポーツの振興等を図るため、引き続き、各競技団体等と連携・協力し、スポーツ大会等の実施を支援する。</p> <p>また、萩城下町マラソン大会、萩往還ワンデーウォーク、駅伝大会等のスポーツイベントについては、市外からの参加者も多く、スポーツによる地域活性化を図る目的においても大変重要であるため、引き続き大会開催を支援し、トップアスリートとの交流イベント等の開催の機会を創出し若者の育成等に努める。</p> <p>加えて、カヌー体験教室の実施により、地域住民等にカヌー競技が親しまれるよう、地域と一体となって周知活動に努め、各競技団体などと協働し、体験教室の充実、競技の普及に努める。</p> <p>なお、スポーツ活動は、自らスポーツ活動に参加(「するスポーツ」)することだけでなく、試合の観戦(「みるスポーツ」)や、スポーツイベントのボランティア活動に参加(「ささえるスポーツ」)することも含むものとし、こうした「する」「みる」「ささえる」という様々なかたちで、スポーツ活動に自主的・自発的に参画し、交流を深めることを通じて、スポーツに親しみ、「楽しさ」や「喜び」を得ることができるような取組を図り、スポーツによる地域活性化に繋がるよう努める。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>・スポーツイベントでは、城下町マラソン、駅伝、ワンデーウォークといった歩いたり、走ったりするイベントが目立つ。マラソン以外で、障がいや年齢に関わらず、誰もが楽しめて、参加者が多く集まるイベントも検討してほしい。</p> <p>・トップレベルの選手を間近に見る機会があると、子どもたちの刺激になる。合宿誘致事業をされているが、様々な競技の合宿誘致を進めてほしい。</p>

項目	家庭・地域・保育所・認定こども園等・学校・図書館での読書活動の推進	担当課	萩図書館
目的・目標	家庭、地域、保育所、認定こども園等、学校及び図書館の役割の明確化並びに当該役割に応じた主体的な取組の推進を図るとともに、相互連携のためのネットワークの構築を行う。		
実施状況・成果	<p>萩図書館、須佐図書館、明木図書館の3館体制により、萩市全域をカバーし、標記目標に係る取組を実施した。また、萩図書館においては、NPO萩みんなの図書館との協働により読書活動を推進した。</p> <p>1 家庭・地域での読書活動の推進</p> <p>(1) 10ヶ月児健康相談等での読書案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間14回、参加者164組 <u>(目標値 10回以上開催、参加者80組)</u> <p>(2) 児童館や公民館、児童クラブ等との連携による読書活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館 年間6回、183人 (目標値 年間3回以上、50人以上) ・公民館 年間3回、83人 (目標値 年間2回以上) ・児童クラブ 年間24回 282人 (目標値 年間8回以上) <p>2 保育所・認定こども園等での読書活動の推進</p> <p>(1) 団体貸出の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9園 年間5,489冊 (目標値 6園、年間3,300冊以上) <p>(2) 移動図書館車の保育園等への巡回及び読み聞かせの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回、貸出 20園 年間13,271冊 <u>(目標値 20園 年間15,000冊)</u> ・読み聞かせ 6園 106回 (目標値 4園以上 年間65回以上) <p>(3) 保育所・認定こども園等の読書環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ等 年間3回 (目標値 年間2回) <p>3 学校での読書活動の推進</p> <p>(1) 出前講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間39回 (目標値 年間20回以上) 		

	<p>(2)移動図書館車の学校への巡回及び読み聞かせの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回・貸出 20校 年間10,924冊 (目標値 19校 年間9,000冊以上) ・読み聞かせ 5校 年間31回 (目標値 2校以上 年間10回以上) <p>(3)団体貸出の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・17校 年間6,414冊 (目標値 15校 年間6,000冊以上) <p>(4)小中学生の読書習慣が全国・県平均以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日10分以上読書をしている児童 54% (全国60%、山口県59%) ・1日10分以上読書をしている生徒 49% (全国49%、山口県55%) (目標値 全国・県平均以上) <p>(5)読書が好きな小中学生の割合が全国・県平均以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生 71% (全国72% 山口県74%) ・中学生 61% (全国66% 山口県69%) (目標値 全国・県平均以上) <p>4 図書館での読書活動の推進</p> <p>(1)おはなし会、子ども向け行事等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・292回開催 参加者2,587人 (目標値 年間160回以上開催 参加者 年間1,700人以上) <p>(2)読書通帳を活用した読書啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間発行部数 228冊 (目標値 250冊) ・人口に占める利用登録者数の割合 12.4% (目標値 18%以上)
<p>今後の取組</p>	<p>引き続き3館での連絡調整を密に行い、NPO萩みんなの図書館との協働により読書活動の推進を図る。</p> <p>1 家庭・地域での読書活動の推進</p> <p>(1) 10ヶ月児健康相談等での読書案内、おはなし会等、館外での読書啓発を継続して実施する。</p> <p>(2) 児童館や公民館等と連携し、読書啓発に努める。</p> <p>2 保育所・認定こども園等での読書活動の推進</p> <p>(1) 移動図書館の巡回先で読み聞かせ等を行い、乳幼児期から読書の楽しさを味わってもらおう。</p>

	<p>(2) 保育所等に対し、読み聞かせ等を積極的にアプローチする。</p> <p>3 学校での読書活動の推進</p> <p>(1) 小学校に向けた学年ごとに調べ学習用図書の貸出で学校支援の更なる充実を図る。</p> <p>(2) 中学校でもブックトークやビブリオバトル、ライぶらりなどの出前講座を積極的に行い、読書への動機付けとなる機会を増やしていく。</p> <p>(3) 小中学校と連携し、本に触れる機会を増やし、読書習慣の向上を図る。</p> <p>4 図書館での読書活動の推進</p> <p>(1) 図書館行事及びテーマに沿った図書展示等を継続して行い、子どもの読書活動の啓発に努める。</p> <p>(2) 読書通帳の活用について周知を図り、利用者の増加を図る。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座や10ヵ月児健康相談等での読書案内の取組など、目標回数を上回り、評価できるものの、読書が好きな児童・生徒の割合は、全国や県平均を下回る状況となっている。経年で比較すると、読書が好きな児童・生徒の割合は増加傾向にあり、出前講座等の取組が徐々に効果として表れていると思われるので、継続して取り組んでほしい。 ・ 学校に巡回する移動図書館の本の内容が、低学年の児童向けのものが多い。高学年の児童向けの本を充実させることで、例えば、高学年の児童が、自分で図書館に本を返しに行くきっかけとなり、読書が好きな児童が増えることも考えられる。スタンプやシール配布などの取組を始められたようだが、こうした図書館に足を運ぶきっかけづくりを増やして欲しい。 ・ 中学校でビブリオバトルの見学をする機会があり、子どもが読書に興味を持つ、良い取組だと感じた。出前講座等で学校をしっかりと回って普及に努めてほしい。

項目	読書活動推進のための環境整備及び推進者への支援	担当課	萩図書館
目的・目標	読書の習慣をつけさせるとともに、知識及び想像力を養うため、資料の充実及び施設等の整備を推進する。また、読書活動を支援する専門的職員の資質向上及び学校等で活動する読書ボランティアへの支援を図る。		
実施状況・成果	<p>萩図書館、須佐図書館、明木図書館の3館体制により、萩市全域をカバーし、標記目標に係る取組を実施した。また、萩図書館においては、NPO萩みんなの図書館との協働によりボランティア活動の支援等に努めた。</p> <p>1 蔵書の充実及び利用促進</p> <p>(1) 図書の新規受け入れ数</p> <p>・年間7,493冊 (目標値 年間7,300点以上)</p> <p>(2) 個人貸出点数</p> <p>・年間243,166点 (目標値 年間270,000点以上)</p> <p>2 特集展示の充実</p> <p>・年間249回 (目標値 120回以上)</p> <p>3 電子図書の充実及び利用促進</p> <p>(1) 新規購入数</p> <p>・年間73点 (目標値 年間100点以上)</p> <p>資料単価の値上がりにより目標値が達成できなかった。</p> <p>(2) 貸出数</p> <p>・年間5,829回 (目標値 年間4,000回以上)</p> <p>(3) 閲覧数</p> <p>・年間9,714回 (目標値 年間7,000回以上)</p> <p>(4) 登録者数</p> <p>・累計3,731人 (目標値 令和9年度末までに累計4,200人以上)</p> <p>4 読書に障がいのある人へのサービス</p> <p>(1) 点字図書等所蔵数</p> <p>・点字図書 71冊</p> <p>(目標値 令和9年度末までに100冊以上)</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・音声図書 1, 215点 <u>(目標値 令和9年度末までに1, 500点以上)</u> ・拡大文字図書 1, 995冊 <u>(目標値 令和9年度末までに2, 000冊以上)</u> ・LLブック 35冊 <u>(目標値 令和9年度末までに50冊以上)</u> ・布の絵本 44点 <u>(目標値 令和9年度末までに50点以上)</u> ・デージー図書 147点 <u>(目標値 令和9年度末までに110点以上)</u> ・マルチメディアデージー図書 56点 <u>(目標値 令和9年度末までに54点以上)</u> <p>2019年6月に「読書バリアフリー法」が成立し、合理的配慮が義務化されたことから、点字図書、音声図書、拡大文字図書、LLブック、布の絵本、マルチメディアデージー図書等（以下「点字図書等」という。）を充実し、活字を読むのが難しい子どもが利用できる読書環境の整備を行い、バリアフリーコーナーの充実を図った。</p> <p>5 読書活動ボランティアの活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア支援講座 年間 2回（目標値 年間2回以上）
<p>今後の取組</p>	<p>引き続き3館での連絡調整を密に行い、NPO菖みんなの図書館との協働により読書活動の推進を図る。</p> <p>1 蔵書の充実及び利用促進</p> <p>子どもの幅広い知的要求に応えるため、蔵書の一層の充実に努める。</p> <p>2 特集展示の充実</p> <p>子どもたちの関心をひく特集コーナー作りに努める。</p> <p>3 電子図書の充実及び利用促進</p> <p>電子図書館の利用を更に促進するために、学校への出前講座を積極的に行い、電子図書館の利用促進に努めるとともに、資料の充実を図る。</p> <p>4 読書に障がいのある人へのサービス</p>

	<p>LLブックや点字図書等の資料を充実する。市内小中学校、支援学校やドリームスクールはぎ、ピアサポートセンター香生の里等の福祉施設などに、バリアフリーコーナーの周知に努める。</p> <p>5 読書活動ボランティアの活動支援</p> <p>萩市内の読書活動団体（読み聞かせ団体等）及び学校図書館支援員との連携強化を図り、研修会等の開催による資質向上及び人材育成に努める。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立図書館では、多くの大人が利用している。萩図書館では、大人の利用者が少なく感じる。子どもたちの図書館利用に関する取組の記載が多いが、大人の図書館利用率を上げる活動についても積極的に取り組んでほしい。 ・ 数年前までは、図書館の周知・広報活動が不十分という意見が出ていたが、最近では、ラジオなどでも、図書館の特集を聞く機会があり、SNSを始め、様々な媒体で広報活動に努力されているのがよく分かり、評価できる。

項目	読書活動への理解と関心を深めるための啓発活動	担当課	萩図書館
目的・目標	読書の意義及び重要性について、各関係機関と連携を図りながら、講演会、イベント、図書館見学、職場体験等の実施を通じ、市民の理解及び関心の醸成を図る啓発活動を進める。		
実施状況・成果	<p>萩図書館、須佐図書館、明木図書館の3館体制により、萩市全域をカバーし、標記目標に係る取組を実施した。また、萩図書館においては、NPO萩みんなの図書館と協働により啓発活動を推進した。</p> <p>1 関係機関との連携</p> <p>連携機関 児童館、至誠館大学、税務署、児童クラブ、市役所各課、 NPO法人読書普及協力チーム山口など</p> <p>(1)連携イベント</p> <p>・年間42回（目標値 年間48回以上）</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため、計画した行事を中止した。</p> <p>(2)連携展示</p> <p>・年間12回（目標値 年間12回以上）</p> <p>(3)SNS等での情報発信件数</p> <p>・年間654件（目標値 年間600件以上）</p> <p>児童館やNPO法人読書普及協力チーム山口等、関係機関との連携事業及び行政職員への積極的な情報提供を実施した。また、読書活動及びイベントに関する情報をホームページやブログ、地域メディア等を利用して発信するとともに、イベント等の開催や展示のほか、萩図書館内に職員おすすめの本のコーナーを設置するなど、読書活動の推進の広報に努めた。</p> <p>2 図書館見学及び職場体験の受入れ</p> <p>(1)図書館の利用教育の推進</p> <p>・図書館見学 9回（目標値 11回以上）</p> <p>(2)職場体験を通じたキャリア教育の推進</p> <p>・職場体験 13人（目標値 15人以上）</p>		
今後の取組	<p>引き続き3館での連絡調整を密に行い、NPO萩みんなの図書館との協働により読書活動の推進を図る。</p> <p>1 関係機関との連携</p> <p>引き続き関係機関との連携により、幅広い図書館活動を展開し、乳幼児から高</p>		

	<p>齢者まで、幅広い年齢層を対象とした事業を行う。</p> <p>読書普及活動及びイベントに関する情報をホームページやSNSを使って積極的に市民へ情報発信し、関係機関、団体等への情報提供に努める。</p> <p>2 図書館見学及び職場体験の受入れ</p> <p>図書館見学及び職場体験の受入れにより、図書館利用のきっかけ作りを支援する。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>・図書館見学及び職場体験の受入れの目標値が達成できていない。各学校等への周知に努めるとともに、職場体験よりも、実施しやすい図書館見学を重点的に推進することで、本や図書館に興味を持つ子どもが増えていくのではないかと。</p>